

保護者等からの事業所評価

公表：令和6年3月7日

事業所名：lapöale健軍

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	1		2		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	20			1		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化され環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17	1		2	活動エリアは構造化され、特性にも応じたものになっているが、2階までの移動が基本は支柱のみの階段で、転落の危険性があるのは気になる。	移動の際は、必ずスタッフを配置し手を繋ぐなどの安全対策を行っている事を発信していく。また、柵設置を行うなどの環境整備についても検討を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	20	1				
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	20			1		
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	20			1		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20			1		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	20			1		
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	9	3	1	6	実施されているのかもしれないが、利用日ではまだ経験はない。うちの子どもは交流あります。療育の活動の中でそういう機会があるかどうかはわかりません。	課外活動を取り入れており、交流があるものの機会が限られているため、どの年齢、利用日でも交流できるよう機会を増やしていく。
保護者への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	1				
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	20					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	11	3		6	自宅への送迎時、祖母が対応しているが関わり方のポイントに触れることもあったようだ。	事業所内や家庭連携での会話、助言の機会を増やしていく。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	21					
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17	2		1	定期的にそういう機会があるのか不明	家庭連携や事業所内相談などの相談機会がある事を、積極的に保護者に周知していき機会を増やしていく。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	1	6	11		感染症の状況により、保護者会等の実施検討を行う。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19			1	相談したいことがある時に、どのようにしたらいいのかわからない(説明されたのかもしれないが覚えていないのかも)	家庭や園での様子について定期的に報告や相談をいただけるよう、保護者に対して積極的にアプローチを行っていく。また、家庭連携や事業所内相談についても、ラポール側から定期的に利用のお声がけを行っていく。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19	1		1		
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	16			5		個人情報の取扱いについて、契約時の重要事項説明を用いて説明を行っている。保護者の認知度が低い為、改めて周知を行っていく。
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	11	2		8		マニュアルの作成や訓練の実施について契約時にお伝えしているが、定期的に行っている様子などを公式LINEやハグノートなどで発信を行っていく。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	1		15		訓練を行っている事を周知出来るよう、定期的にハグノートや公式LINEを活用して発信を行っていく。
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	19	1		1		
	23	事業所の支援に満足しているか	21					

事業所における自己評価結果

公表：令和6年3月7日

事業所名：lapoale健軍

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4				
	2 職員の配置数は適切である	4				
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4				
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	4			毎日終礼時にその日の振り返りを行い、対策や改善策等を全員で考え、決定事項は周知を行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4				
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4				
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			定期的に外部の先生をお呼びして、現場での困り感や疑問に対してのアドバイスをいただいている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4				
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4				
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4				
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4				
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			月案の原本を作りおいたら、全スタッフと共有して意見を出し合っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			活動内容の月案を作り変え、毎月新しい活動ができるよう取り組んでいる。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4				
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		1		前日の終礼時もしくは当日の朝に、その日の活動内容を全体に周知し、全員が自分の役割に責任を持ちながら支援を行えるようにする。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4				
	19 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		1		
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	4				
	22 母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4				
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	2	1	該当する児童が現時点でいない為、該当児が来られた際には連携支援していく。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	2	1	該当する児童が現時点でいない為、該当児が来られた際には連携支援していく。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4				
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4				
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		1		他事業所や他機関と連携の機会を設け、様々な視点からの支援を学んでいく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3		1		チャレンジ保育園と連絡を取り合い、交流の機会を増やしていく。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	1		3		そのような部会や会議が開催される際にはスタッフ全体に周知し、参加のきっかけ作りを積極的に行っていく。
保護者への説明責任等	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2		2		送迎時や連絡機・LINE等でこまめにやり取りを行い、ご自宅での困り感や相談事を聞きアドバイスをするなどして保護者に対し支援を行っていく。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3		1		スタッフ全員が統一した説明ができるよう、運営規定や利用者の負担についても一度しっかりと見直ししていく。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4				
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4				
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1		3		
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4				
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3		1		ハグノートやチラシを使って、こまめに活動内容や行事等を発信していく。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	4				
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4				
非常時等の対応	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1		3		
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4				
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3		1	定期的にマニュアルの確認や想定した動きのイメージの共有を行なっている。	災害時の対応の確認だけでなく、実践的な避難・救助訓練もしっかり行っている。
	43 事前に、服薬や手洗接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3		1		
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	3	1			
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1			事例集の確認の仕方を共有していく。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4				